

# 安心・安全の科学研究教育センターニュース

Center for Risk Management and Safety Sciences

## 【目次】

- ❖ 安心・安全センターの平成 18 年度事業計画と今後の展開
- ❖ センターの活動紹介
- ❖ センターからのお知らせ
- ❖ 人材育成ユニットのこれまでの取り組みと平成 18 年度の実施予定、履修生募集
- ❖ 新しい教職員のご紹介、センターの所在、教職員、編集後記

第4号



## 安心・安全センターの平成18年度事業計画と今後の展開

安心・安全の科学研究教育センター長 関根 和喜

### 1. はじめに

本センターは、平成 16 年 6 月に設置以来、本学の特色の一つである「安心・安全の科学」に関する様々な研究・教育に関するポテンシャルを活かして、「安心・安全の科学」に関わる研究・教育の成果を社会に発信するとともに、文理融合型の研究・教育プロジェクトを全学のご協力、ご支援の下、企画、推進してきました。ここでは、今年度の具体的な事業計画についてご紹介したいと思います。

### 2. 学生教育「大学院生を対象とした教育プロジェクトの推進」

平成 16 年度より、全学からのご協力をいただきながら文部科学省科学技術振興調整費新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」という社会的にも大きく注目される教育プログラムを推進しています。この 3 月には、初めての修了生（修士 21 名、博士 1 名）を送り出すことができ、学生からも、「幅広くリスクに関して学べたこと」などについて、高い評価が得られました。今後も社会の要請に応じて、内容を見直しながら推進して参ります。

### 3. 社会人教育「社会ニーズのある公開セミナーの実施」

人材育成ユニットと連携して、学生だけでなく社会人の方も対象に、最新の「安心・安全の科学」に関する公開セミナーを実施しています。昨年度は 3 回の予定のところを 4 回実施し、延べ 359 名という、多くの参加者を得ることができました。今年度も、同様に 3 回程度の公開セミナーを実施することを考えています。

### 4. 研究開発「新たな研究プロジェクトの企画・推進」

3 月 28 日から（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構の競争的公募研究として、「石油タンクの先進的セイフティマネジメントのための基盤技術の創生— 研究

拠点形成による包括的維持管理技術の開発 —」（平成 17～19 年度）が採択されました。当センターを中心に、学内の複数部局ならびに包括連携先である石川島播磨重工業株式会社等の関連機関とが連携して、新たな大型研究プロジェクトに取り組みます。

また、高圧ガス保安協会（平成 16 年度）や新日本石油株式会社（平成 17 年度）等に引き続き、センターを拠点に、従来の技術的な側面のみではない多様な共同研究も企画、推進していきたいと思っています。

さらに、昨年度、教育研究高度化経費で「安心・安全の科学研究教育拠点形成のための基盤情報の整備と発信」というテーマで、全学の関連の先生方に参画していただきながら、「安心・安全」に関する幅広い情報収集とそれらを活用した文理融合型の研究プロジェクトを企画しました。既に一部は、前述のような具体的成果として結実しておりますが、今後もこれらを発展させて、様々なプロジェクトを推進していきます。

### 5. 今後の展開「関連機関との連携やセンターの拡充」

昨年、文部科学省に設置された安全・安心科学技術企画室や他の関連省庁、地方自治体、その他関連機関との連携を強めたいと思っています。また、今年度は、本学中期計画に基づき COE の生物・生態環境リスクマネジメント国際研究教育センター準備室と当センターを統合するとともに、各研究院・研究科等で「安心・安全」に取り組む先生方に併任教員としてご参画いただいて、その活動を益々充実したいと思っています。

今年度も、本センターの今後の活動について、ご支援、ご協力をいただきますとともに、ご意見、ご要望などをお寄せいただければ幸いです。



## センターの活動紹介

### 第5回 COE「生物・生態環境リスクマネジメント」シンポジウムが盛況に開催

3月22日に21世紀COEプログラム「生物・生態環境リスクマネジメント」のシンポジウム「生態環境リスクマネジメントへのアプローチ」（教育文化ホール）が開催され、当センターも共催団体の一つとして参加しました。丹沢山系から相模湾までの地域を対象とした事例研究を中心にして、生態環境リスクマネジメントに関する様々な研究発表が行われ、学内外から181名の多くの方々の来場がありました。神奈川県環境農政部の片桐佳典次長からのご挨拶では、本学との益々の連携に関する期待のお言葉をいただきました。

## センターからのお知らせ

### 🌸 安心・安全関連の学内外の動き 🌸

#### 安全・健康・快適フェア(ブース出展)

5月17日～19日に東京ビッグサイトで「安全・健康・快適フェア—安全衛生総合展 2006—」（全国安全会議、中央労働災害防止協会主催、入場無料）が開催されます。このフェアは安全・健康・快適に関する情報と技術の総合展示会で、職場の安全衛生、環境改善、健康・リフレッシュ、防災・防犯・セキュリティー、交通安全、医療・学校安全などをキーワードに多数の企業や団体が参加します。当センターでも、主催者からの要請を受けてブースを出展する予定です。

ブースでは、センターの活動や本学の安心・安全関連の研究教育について紹介するパネルの展示、センターのパンフレットやニュース等の配布を行います。本学の先生方や関連の本学発ベンチャー企業などの安心・安全関連の情報を発信することも可能ですので、パンフレットや資料などの展示、配布希望がございましたら当センターまでご連絡下さい。

参考：中央労働災害防止協会

[http://www.jisha.or.jp/event\\_campagin/index.html](http://www.jisha.or.jp/event_campagin/index.html)

#### 文科省に安全・安心科学技術委員会が設置

文部科学省科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会に、新たに「安全・安心科学技術委員会」が設置されました。事務局は、昨年文部科学省科学技術・学術政策局政策課に設置された安全・安心科学技術企画室であり、第一回の会議では当センターで推進する「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」についても紹介されました。今後も、当センターではこの委員会や安全・安心科学技術企画室とも連携した活動をしていく予定です。

### 第2回 横浜国立大学 GIS・文理融合 公開研究会が盛況に開催

3月23日、中央図書館メディアホールにて「第2回 横浜国立大学 GIS・文理融合 公開研究会」（主催：横浜国立大学、担当：教育研究高度化経費プロジェクトチーム、安心・安全センター）が開催されました。GISを基盤として、危機管理、環境マネジメント、まちづくりなどをキーワードに、神奈川県および横浜市をフィールドとして、異なる分野の研究者、自治体関係者が実践的な課題解決に向けて何ができるかについて、それぞれの立場の方からのご講演があり、活発な議論が行われました。



#### センターHPによる情報発信の強化

当センターのホームページを充実します。下記のような情報を近日中に掲載しますので、ご注目下さい。

- ①本学の安心・安全関連の研究者情報
  - ②センターで所蔵する安心・安全関連情報一覧
  - ③センター年報
  - ④センターニュース
  - ⑤安心・安全関連機関などリンク集
  - ⑥化学物質の安全性関連のデータベースリンク集
- 随時、内容を追加、更新しますので、ご意見や情報をお寄せいただければと思います。

#### 理学研究棟の耐震補強工事に伴う 当センターの一時移転について

当センターがある理学研究棟は平成18年度に耐震補強工事が予定されるため、これに伴い当センターは化学工学・安全工学棟5階に約10ヶ月間一時移転します。工事が完了した後は、理学研究棟の5階に入る予定です。



化学工学・安全工学棟



## 人材育成ユニットのこれまでの取り組みと平成18年度の実施予定

人材育成ユニット実行委員長 岡 泰資

### 1. 平成17年度のユニット実施概要

本学大学院での教育・研究の内容や将来の就職等においてリスクマネジメントに関連する分野を強く志向する全研究科・学府に在籍する大学院生を対象に、本学所属の教員および特任教員の13名で構成されたユニット実行委員会（教育ユニットの管理と推進、教育方法・カリキュラムの検討、単位・修了要件の確認等）を中心に、全学の協力体制のもと、文部科学省科学技術振興調整費による教育プログラムである「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット（以下本ユニット）」を運営しました。具体的には、必修のユニット特設科目として、先進的なリスク分析技術に関連した「リスクの分析とコミュニケーション」、リスクコミュニケーション手法に関連したワークショップである「リスクコミュニケーション・ワークショップ IA、IB、II（以下RCW-IA、RCW-IB、RCW-II）」を開講しました。またユニット推奨科目として、「リスクマネジメントのための技術者倫理A、B」、「リスク管理におけるヒューマンファクターズ」、「安心・安全文化教育論」、「安心感の心理・社会的基盤」、「実践的災害リスクアセスメント論」、「リスクマネジメントと社会技術」、「産業と安全」といった7科目に加え、各研究科・学府で開講している29科目を関連科目に位置づけた科目群を開講しました。また、RCW-IBの一環として、リスクアセスメントの世界的権威Erik Hollnagel教授による集中講義や「経営者のためのリスクマネジメント」、「リスク分析とリスクマネジメントにおける人間のエラーの位置づけ」、「地震災害とリスクマネジメント」、「科学技術のリスクコミュニケーション実践論」の4回の公開セミナーを実施しました。

本ユニットの修了要件は、所属の研究科・学府の修了要件を満たし、かつ必修のユニット特設科目および関連科目群から2科目4単位以上の修得であり、平成16年度ユニット登録学生の24名の内、この要件を満たした22名（修士相当21名、博士相当1名）に、「ユニット修了証」が授与されました。

本ユニットの修了生が、それぞれの分野でリスクマネジメント技術者としてはばたくことを願っています。



### 2. 平成18年度のユニット実施予定概要

ユニット推奨科目として、「災害リスクマネジメントのための確率・統計論」、「都市リスク解析のための空間情報科学」および「構造材料のリスク」の新規3科目を追加した計11科目を位置づけるとともに、各研究科・学府が開講予定の25科目を関連科目群として開講の予定です。さらに本ユニットの中核として必修科目に加え、既に登録している学生41名に対応するためRCW-IAでは1グループ、RCW-IBでは3グループの追加を予定しております。RCW-IIは履修生に合わせたインターンシップ形式の学外実習を実施する予定です。さらに上記の教育を実施するため、教育スタッフ（特任教員、RA等）が中心となって教育システムの拡充整備を行います。

実施内容の詳細につきましては、募集要項あるいはユニットパンフレットをご覧ください。幸いです。

(<http://www.anshin.ynu.ac.jp/unit/home/index.htm>)

さらに、今年度より外部評価委員会を発足させ、本ユニットの教育システム、運営方法等に関わる意見を賜る予定です。

表：H18年度ユニット関連科目

※	安心・安全文化教育論	教
	教育臨床相談講義(学校臨床心理学講義)	教
	学校心理学講義	教
	環境法	国
	社会保障法	国
	人間科学特論	国
	経営組織特論2	国
	ビジネス・モデリング特論	国
	経営情報特論	国
	企業と社会特論	国
	生産システム特論	国
※	リスクマネジメントのための技術者倫理A	工
※	リスクマネジメントのための技術者倫理B	工
※	産業と安全	工
※	リスクマネジメントと社会技術	工
※	実践的災害リスクアセスメント論	工
※	安心感の心理・社会的基盤	工
※	リスク管理におけるヒューマンファクターズ	工
新※	災害リスクマネジメントのための確率・統計論	工
新※	都市リスク解析のための空間情報科学	工
新※	構造材料のリスク	工
	エネルギー変換材料	工
	防災システム論	工
	都市住居環境論	工
	イノベーションと環境マネジメント	環
	イノベーションと社会的合意形成	環
	環境リスクマネジメントのための国際社会制度	環
	植生環境管理学	環
	生態リスクマネジメント理論	環
	環境リスクの社会規制事例研究	環
	化学物質の環境動態とリスクモデル	環
	化学物質の有害性・危険性情報と社会的利用	環
	化学物質のセイフティマネジメント	環
	地域社会と化学災害リスク論	環
	暗号とセキュリティ	環
	安全・環境調和都市デザイン論	環

※印・・・本ユニットのために新設された科目

### 3. 新規ユニット登録学生募集のお知らせ

本ユニットも3年目を迎えることになり、新規ユニット登録学生として修士 45～50 名および博士若干名を予定しています。

登録希望者への説明会を4月6日、7日の両日とも16時30分～16時55分にかけて、中央図書館メディアホールにて開催の予定です。登録申請時の提出書類には指導教員の了承・推薦が必要となりますので、ご理解・ご協力のほどお願い致します。

#### 文部科学省

科学技術振興調整費新興分野 人材養成プログラム

## 高度リスクマネジメント 技術者育成ユニット 履修生(大学院生)募集!

登録期間 : 3月29日～4月14日

問い合わせ : TEL 045-339-3772

募集要項配布: 理学研究棟 302 号室

<http://www.anshin.ynu.ac.jp/jpn/unit/index.htm>

※先生方へ: ゼミや研究室の学生さんへの周知をお願いします。

### 安心・安全センターの所在

中央図書館近くの理学研究棟の3階にあります。ぜひ一度、お立ち寄り下さい。



### 安心・安全の科学研究教育センター教職員

#### センター(社会人教育、研究開発ほか)担当

センター長(併任)	関根和喜	技術専門職員	鈴木雄二
助教授	小林 剛	事務補佐員	河村麻子

#### 高度リスクマネジメント技術者育成ユニット担当

特任教員(教授)	田村昌三	特任教員(助教授)	村上史朗
特任教員(教授)	小林英男	特任教員(講師)	古屋貴司
特任教員(教授)	花安繁郎	技術補佐員	池上章代
特任教員(助教授)	丹羽雄二	非常勤講師	首藤由紀

### 新しい教職員のご紹介

4月1日より、高度リスクマネジメント技術者育成ユニットの特任教員(教授)として、花安繁郎先生が新たに加わります。

#### 特任教員(教授) 花安繁郎

前職: 独立行政法人産業安全研究所研究部長

花安繁郎(はなやす しげお)と申します。これまで独立行政法人産業安全研究所(旧労働省産業安全研究所)において、災害リスク統計分析やリスクマネジメントに関する調査・研究に従事して参りました。安心・安全の科学研究教育センターでは、次世代の新たな安全のあり方について考えてゆきたいと思っております。皆様のご指導とご便捷をお願い申し上げます。



担当講義: 災害リスクマネジメントのための  
確率・統計論

### 編集後記

- ❖本ニュースはセンターのプリンターで印刷しています。なかなか綺麗だと自画自賛しています。(T)
- ❖ニュース4号はユニット初の修了式、新しい先生のご着任、一時移転など、話題が豊富です。(Y)
- ❖桜の季節がやってきました。来年の桜は耐震補強後の安心な理学研究棟から。(M)

『ご意見やお知らせ等の記事をお寄せ下さい』

### 安心・安全の科学研究教育センターニュース

第4号 2006年4月3日発行

国立大学法人 横浜国立大学

安心・安全の科学研究教育センター



〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5  
(理学研究棟 3階 301, 302 号室)

TEL: 045-339-3775, 3776 (社会人教育, 研究開発ほか)  
045-339-3772 (高度リスクマネジメント技術者育成ユニット)

FAX: 045-339-4294

URL: <http://www.anshin.ynu.ac.jp>

E-MAIL: [anshin@ynu.ac.jp](mailto:anshin@ynu.ac.jp)